

令和5年度東京都立田無高等学校経営報告

校長 藤田 豊

1 今年度の教育活動の目標と方策・数値目標

(1) 学校運営

○教職員の「やってみたい」を支援する。

- ・専門学校の教員や外部機関の職員と連携した授業、美術館の学芸員と連携した講習、八丈島の文化に触れる研修旅行、避難所開設を想定した防災訓練、東日本大震災で被害に遭った地域を訪問するスタディツアー、少年鑑別所の職員による教員向けの研修の企画実施、災害に備えた備蓄倉庫の整理など、教職員がやってみたいと考え実際に動き始めた一年であった。

○第40期生の第3学年（令和6年度）の教育課程の策定

- ・自由選択科目16単位のうち、4単位分を必修選択科目として再編する準備を行った。必修選択化により、クラス全員が朝から登校する曜日を増加させ、進学に向け生活リズムを整えることとした。また、学校設定科目「スーパー日本史」「スーパー政治経済」などを設置し、一般受験を目指す生徒たちの学びを後押しする教育課程とした。3年生への必修選択科目の設置は、平成15年度に新教育課程が施行される前の教育課程ぶりである。

○特別支援教育への理解と推進

- ・定期的に特別支援教育推進委員会等を実施（9回実施）し、生徒の状況や支援について情報共有を行えた。生徒への配慮として、椅子の足にテニスボールをつける対応を行うなど、具体的な対応を柔軟に進めることができた。

○施設整備・校内美化

- ・トイレ設備の不備（匂い、扉や便器の破損や故障）が継続し、使用できないトイレが9カ所あったが、令和5年度に集中（換気扇の電源工事を実施し時間制御とした。排水トラップへのゴムシート設置、洗面排水口へのヘアキャッチャーの設置）して取り組み、匂いについてはほぼ解消された。また、使用できないトイレについても、全て使用できるように整えた。
- ・美化委員会の生徒が中心となり、全生徒へトイレの環境改善に関するアンケートを実施、経営企画室及び学校長と意見交換を行った。生徒からは、匂いや使用できないトイレの改善、雰囲気をもくしてほしいなどの要望が出され、上記の対応を急いだ。美化委員として自ら実施したい活動として、個室へのペーパーホルダーの設置を挙げ、全生徒へのアンケートを行い、設置にむけて動いた。このような動きもあり、生徒がトイレを丁寧に使用するようになっている。
- ・硬式野球部、女子ハンドボール部、女子バレーボール部が、定期的に朝の時間に校内の清掃活動を継続し、主体的な生徒の動きが見えつつある。
- ・4階南校舎の流しについて、修理を行うことで、水圧を正常に近づけることができた。
- ・シンデレラ階段にゴムシートを設置し、積雪時の転倒を防いだ。
- ・これまで手付かずであった備蓄品について、発災時に必要物資が速やかに取り出せるように、整

理を開始した。また、生徒職員向けに災害時簡易トイレ用の備蓄を開始した。

○田無高校魅力化委員会の設置

- ・魅力化委員会は設置したものの、実動をすることはできなかった。一方、今年度は、夏季期間の制服に準じる形でのポロシャツの導入にむけて取り組んだ。ポロシャツの色展開については、生徒へのアンケートをもとに決定し、左胸にあしらうマークについても、美術部の生徒が作品を制作し、生徒の投票により決定し、生徒自らが学校を作るという実感を持たせている。

○防災教育の推進を図る

- ・宮城県を訪問するスタディツアーを実施、希望する生徒17名が参加した。2学期始業式や文化祭で活動報告を行い、生徒の学びを、自信をもって発信する場を設定した。また、地元の行政機関等と連携し、避難所開設を意識した地域防災訓練や避難所運営ゲームを企画実施した。防災係に訓練に関する準備などの役割を担わせて実施することができた。また、防災係の力を活用し、実際のトイレを活用した応急簡易トイレ作成体験など実施することができた。

○グローバルな視点の育成

- ・都教育委員会主催の多文化共生海外派遣研修に応募し、選定され、本校1・2年生4名がUAEを訪問した。12月には、活動報告を行い、クラスにいる身近な生徒が、海外に渡航し、様々な文化に触れる経験を生き生きと語る姿により、他の生徒も大いに刺激を受けた。
- ・柔道部の日頃からのつながりにより、台湾の高校生・大学生が本校を訪問し、2年生を中心に交流する機会が持てた。レクリエーションを企画するなど、生徒の好奇心や柔軟性が見えた。

○地域に開かれた学校づくりを進める。

- ・上向台小の行事、公民館主催の行事、地域の幼児や小学生低学年を対象としたティーボール教室、田無特別支援学校の夏まつり手伝い、地元保育園の夏祭り手伝いなど、地域と関わる機会が増加しつつある。1月中旬には、市役所職員とともに、本校生徒33名が田無駅前にて、能登半島地震にかかる募金活動を行った。
- ・公開講座については、これまでの「テニス講座」「柔道講座」に加えて、「金継ぎ講座」「パソコン講座（EXCEL、Javascript）」の5講座の実施となり、受講者から好評を得た。
- ・図書館運営として、西東京市立図書館やMUF Gパーク内の「まちライブラリー」を訪問し、本校の図書館運営へのヒントを探るとともに、次年度以降の連携にむけて一歩踏み出した。

	R5目標	R5結果
①年休取得目標日数	15日	15.3日
②特別支援教育に関わる研修会	3回	4回
③エリアネットワークを活用した特別支援学校との連携	3回	4回

(2) 学習指導

- 生徒に考えさせる発問を意識した展開の授業が増加している。一人1台端末の活用が進みつつある。生徒の考えを瞬時に集約し、クラス全体で共有する授業もある。

○1・2年生対象の朝学習を、週2回実施し、学びへの意識と生活リズムを整えることに寄与している。

○ICTリーダーとデジタルサポーターが協力し、オンラインによる授業などICT機器の使用に関する研修会を複数回実施し、教職員の技術力の向上を図っている。

○実技科目での新たな取り組み例として、西東京市選挙管理委員会との連携、専門学校との連携、住居に関するアプリを活用した授業、絵本をモチーフにした創作ダンスの授業を実施した。それぞれ、生徒が生き生きと学び表現する授業展開となっている。

○学習活動の改善と基礎学力の定着・向上

- ・学力を伸ばす授業が行われている (生徒回答) 67% (65%)
- ・生徒が授業にとりくむ熱心さ (生徒回答) 82% (80%)
- ・補習や講習が充実している (生徒回答) 66% (66%)
- ・補習や講習を積極的に実施している (教員回答) 64% (61%)
- ・学力を伸ばすための工夫を行っている (教員回答) 93% (96%)

○理数教育・探究学習の推進

- ・理数教育の推進に係る「SIP (SIP (Scientific Inquiry Program) 拠点校 (第I期)」として、情報分析の分野から取り組んだ。今年度も東京サイエンスフェアに参加し、ポスター発表を行った。生徒の前向きな取り組みの成果について、学校全体に向けた発表の機会を設定するなど、身近な生徒が自信をもって活動することを通じて、学校全体の活性化につなげたい。

	R5目標	R5結果
①教科内外教員相互の授業見学	3回実施	3回実施
②生徒の1日平均の学習時間	平日1時間以上	19分1・2年生・2学期
③授業満足度肯定的回答	90%	82%

※生徒の一日平均の学習時間が少ない状況である。この結果となっている理由について、分析するとともに、学習習慣を定着させることが今後の課題である。

(3) 生活指導

○身だしなみ指導について、継続して進めている。年度後半より、生活指導部教員が登校時間に合わせて、自転車通学生への声掛けを実施している。また、自転車乗車時のヘルメット着用について機会を見て、説いているが、現状としては定着していない。

○道徳心や規範意識の向上

- ・ルールを守る指導の適正さ (生徒回答) 66% (65%)
- ・私は学校のルールを守っている (生徒回答) 89% (90%)
- ・わが子は、生活指導の方針を納得している (保護者回答) 76% (77%)

○生活指導の充実

- ・生活指導をきちんとしている学校。(地域回答) 58.6% (68%)
- ・私は自己の健康や安全について気を配っている。(生徒回答) 84% (83%)
- ・心のケアや悩みを相談できる体制がある。(生徒回答) 70% (72%)
- ・学校には気軽に相談できる体制がある。(保護者回答) 59% (58%)

	R5目標	R5結果
①年間遅刻回数	1クラス1日1人以下	1.1人
②特別指導件数	0件	7件

(4) 進路指導

○大学や専門学校卒業後を見据えた、キャリア教育の充実により系統的・組織的な進路指導を行う。

- ・進路に向けた「ガイダンスなどが充実している (生徒回答) 87% (86%)
- ・学校からの進路情報が、充実している (保護者回答) 50% (59%)

○ 高大連携等により学習意欲を高め、家庭学習時間を増加させ、大学等への進学率を高める。

- ・大学・短大進学率 61.4% (68.2%)

○ 全学年の補習、補講を充実させる

- ・今年度は、入学時から、学習する機会を視覚化させ、学びに向かわせるために、進路指導部が調整役となり、1・2年生においても夏期講習を行うこととした。44講座を開講したが、実際は33講座の開講となった。2学期以降の先取り講座や1学期の内容の定着をねらう講座、実験の楽しさを感じる講座、進路活動につながる講座など多彩な講習が行われた。一方、開講したにも関わらず、実施できなかった講座もあり、生徒への見せ方は次年度の課題である。

	R5目標	R5結果
①進路決定率	95%	95.1%
②日東駒専延べ合格者数	15人	15人
③大東亜帝国延べ合格者数	50人	51人
④1・2年生向けの保護者向け進路情報の発出	年間3回	0回
⑤夏期講習・補習の開講数	40講座	33講座

(5) 広報・募集活動

- ・今年度は、学校説明会、授業公開での来校者数が大幅に増加した。推薦選抜・学力選抜ともに、応募倍率が過去10年間の中でも高い水準となった。本校に在籍する生徒の口コミ、紹介動画、ホームページの相乗効果が考えられるが、継続した検証が必要である。

○ホームページなどの充実

- ・様々な行事、授業、図書館、環境整備、部活動など、様々な切り口で、生徒の取り組みの様子や授業展開をする際の教員の意図や思い、学校を支える方々の思いや動きを表現することができた。
- ・特徴的な授業の取り組みについて、担当する教員がページを作成し、公表することが増えている。

・部活動のページについて、教員による発信が増加した。

○ホームページの更新 222回(216回)

○学校説明会等の電子申請化 100%(100%)

○学校説明会、授業公開ともに、参加人数が大幅に増加した。特に2学期の土曜日に実施した授業公開には245名の中学生とその保護者が来校した。

○広報委員の生徒が中心となり、学校紹介の動画を5本制作した。全体を取りまとめた作品は、学校説明会でも好評を得て、東京都教育委員会の「まなびゅー」に登録手続きを行っている。

○生徒会執行部が、学校説明会の際に、校舎内を回れるようなスタンプラリーを企画実施した。

	R5目標	R5結果	R4結果
①一次募集応募倍率	1.4倍	1.50倍	1.45倍
②学校説明会参加者数合計者	1300人	1836人	1353人
③中学校訪問・学習塾訪問	100校・教室	49校・教室	
④学年行事等に関するページの作成	3回以上	多数	
⑤中学生向けのミニ動画の作成	3本以上	5本	

※今年度は、学校案内パンフレットの完成が遅れ、郵送を中心にしてPRに努めた。次年度は、進行管理を適切に行うことを意識したい。

(6) 特別活動・部活動

- ・これまで、9月に体育大会と文化祭を実施していたが、総合型選抜に取り組む生徒が増加したこともあり、9月の進路活動を充実させるために、体育大会を6月に移動し、6月に設置していた合唱コンクールを1・2年生対象として2月に実施した。
- ・部活動加入率は、昨年と変わらず68%である。今年度は、冬の生徒総会にて「ボランティア同好会」が承認され、発足。地域とのかかわりの期待が持てる。調理研究同好会は、「笑顔と学びの体験プロジェクト」を活用し、八丈島の研修旅行を実施した。
- ・部活動の夏期合宿は、男子硬式テニス部、柔道部、陸上競技部、硬式野球部、男女バドミントン部。女子バレーボール部、女子ハンドボール部において実施し、コロナ禍以前の活動に戻りつつある。
- ・新型コロナのため、生徒たちは様々な経験が不足している。先輩から後輩への伝達が途切れ、生徒も困惑している。そのため、各行事を実施するに際し、担任や顧問は、生徒が自ら企画実施する経験をさせることに留意し、自己有用感を持たせるために生徒へのかかわりを工夫している。

	R5目標	R5結果	R4結果
①部活動加入率	85%	68%	68%
②ホームページでの各部活動のページ更新	年3回以上	平均2.6回	平均2.1回